

都心を流れる川と聞くと、臭い、汚いなど、負のイメージも多いのではないだろうか。川沿いに建つ事務所やマンションは、川に対して背を向けて建てられることも多い。川と護岸の関係上、そう建てざるを得ないケースも多々あるが、人と川を遠ざけるように建てられているように見える。

生活と密接した水辺

名古屋市内にもビルの合間を流れる川がいくつもある。堀川はその一つである。堀川の歴史をたどると江戸時代初期までさかのぼり、1610年の名古屋城築城と共に堀川は開削されている。名古屋城及びその城下は名古屋台地の北西端、伊勢湾から離れた立地にあり、物資運搬のための物流ルートが不可欠であった。

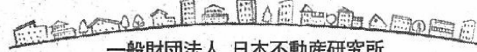
名古屋城と熱田の浜を堀川が結び、川岸には米蔵、貯木場が建ち並び、また城下を代表する桜の景勝地もあったそう

だ。堀川には船や筏が行き交い、川岸では荷揚げ作業が行

～文化的歴史的所産を巡る～

残したい情景

第6回 名古屋市・堀川



一般財団法人 日本不動産研究所

堀川は確実に名古屋の発展に貢献してきたが、時代が移り変わり急速な都市化と共に水質が悪化した。66年には最も水質汚濁が進み、死せる川と呼ばれ、堆積したヘドロの悪臭もひどかったようだ。また物資運搬は水運から陸路へと移行し、堀川は人の生活から遠ざかっていった。

こうした堀川の再生のため、89年に名古屋市は堀川総合整備構想を策定した。河川改修による治水機能の向上、水辺環境の改善による都市魅力の向上、沿岸市街地の整備・活性化を堀川整備に対する基本方針として示したものの

整備構想に基づき①親水空間を活用した結婚式場がオープン ②人出で賑わう護岸で開かれるイベント



が作り出された。現在は堀川沿岸の親水空間を活用した結

城下の繁栄担った死せる川

人との関係性を取り戻す

で、その後の堀川の整備は構想の元を実施され、親水の護岸、遊歩道などの整備等が行われている。

想像される。

08年には、堀川七橋の一つである納屋橋の南側川岸において、名古屋市による市有地整備活用提案の募集が行われ、民間企業による事業用定期借地での集客施設の提案が行われた。施設条件には親水広場の設置も含まれており、人と堀川の接点

17年には納屋橋東地区市街地再開発事業により、再開発ビルのラッセ納屋橋が竣工、飲食店等が入る商業施設や都心居住型のタワーマンションが完成した。このマンションは分譲開始後、好評のうちに完売している。

活気溢れる護岸

多様な団体による堀川をテーマとした活動も多い。堀

結婚式場として利用されている。

開削当時は名古屋城下繁栄の一角を担い、一時は死せる川とも呼ばれた堀川だが、また徐々に人との関係性を取り戻している。残る課題はあるが、人から親しまれる都心の川として、地域への愛着を高める存在となるよう願う。

(東海支社／不動産鑑定士・益子岳貴)

